

令和7年10月15日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

き ず な

す 住 み よ い げん き な みどり の さと おお くさ の
住 み よ い 元 気 な 緑 の 郷 大 草 野

大草野小学校 150 周年記念！ ☆かかし祭り開会☆

場所:元スパーすぎみつ跡と小学校グラウンドの間、期間:10月12日(日)～26日(日)

今年は、見出しにも書いていますように、明治8年(1875年)に南大草野の谷山の地に民家を借り受けて開設し、大草野小学校と称してから150周年の年になります。6つの部会では、何をテーマにするかをそれぞれに話し合っ、ここに展示しています。この場所での展示は初めてです。大変有り難いことに、杉



光さんの快諾を得て、この場所で開催することができています。

開催期間中には、小学校で体育大会が開催されますので、そのときにはたくさんの方に見ていただくことができるだろうと思います。

今年も和光幼稚園に参加していただいています、人が乗った巨大カブトムシが、入口で歓迎してくれます。

懐かしい頃を思い出しながら、ゆっくりとご覧ください。

「塩田庁舎利活用基本計画(案) 報告会」を開催！(10月8日:水)

新しい嬉野庁舎の竣工後は、行政機能が新庁舎に集約されることに伴って、現在の塩田庁舎には空きスペースが生じます。それと、現在の中央公民館(塩田公民館)の耐震力が低く使用を続けるのが難しく、この先解体する必要があることなどで、公民館機能を包含して塩田庁舎の利活用を図ろうということで、検討委員会が設けられ、これまでたくさんの話し合いが持たれました。そして、基本計画(案)が策定された段階になり、先ほどパブリックコメントなどが行われました。その検討委員会に、大草野コミュニティ代表として、田中均氏(辺田区)と諸岡博子氏(南下区)の2名が委員として参加していただいていますので、これまでの状況などを含めて報告をしていただくことにしました。



田中均氏には、市役所の資料とは別に自作の資料を作ってください、また分かりやすく説明していただきました。

塩田庁舎とその周辺一帯をどのように活用していくかを方向付けていくことは、決して現状から後退していくことではないと思います。衆知を集め、アイデアを出し合っ、今まで以上に人が集まる施設にしてほしいと思います。

特に、若い世代の方がたくさん集まり、交流が広がるような施設や仕組みなどを構築してほしいと思います。この後の段階に話が進めば、なかなか方向変換が出来なくなりますので、今のうちに、皆さんのアイデアを2人の委員の方か、市役所企画政策課に届けるようにしてください。

5年生 稲刈り体験学習 無事終了！ (10月9日:木)

6月20日の田植え体験のときに、「未知との遭遇」を感じさせた5年生たちは、苗が育つと同じように、110日間の間に成長していました。5年生と言ってもまだ子どもなので、元気な担任の先生の指示や叱咤激励の声は続いてはいましたが、田植えのときのような「今どきの子っぽい不思議さ(?)」はずいぶん薄らいで、途中から疲れが出てきた様子はありませんでしたが、みんなしっかりやり終えました。田植えのときに、上手に植えているな！と思って見ていた子は、やっぱり、稲刈りも上手にやっていました。作業の手順をコミュニティのG達が話すときにちゃんと聞いてくれている子は、それが作業する行動にも結び付いています。昨年に比べて、葉がまだ青く感じましたが、刈り取って干した量は昨年より多く感じます。しばらく干して乾燥させ、



白米にして子ども達に渡すまでに2、3週間かかりますのでもう少し待ってください。担任の宮崎先生は、「ごはんを炊いて、おにぎりにして子ども達と食べたいです。」と言われました。

ぜひ、美味しいおにぎりを口いっぱい頬張って、食べてほしいと思います。子ども達のそれぞれの人生史に、田植えと稲刈りの



体験が少しでも記憶に残ってくれたらいいな、と願うばかりです。みんなで、美味しいご飯を、お腹いっぱい食べてね。

嬉野温泉駅ボランティア清掃(9月28日:日)

この日の清掃作業は、駅長が他の駅のイベントで不在ということでしたので、2階のホームの清掃は出来ませんでした。それで、1階の外回り、駅の構内、窓ガラスの清掃などを行いました。

いつもとちょっと勝手が違いましたが、本日の担当部会は、環境整備部会と地域づくり部会の皆さんで、20名以上が集まり、駅の東側と西側に分かれて段取りよく掃除を進めていただいて、1時間しないうちにひと通りの作業を終えました。コミュニティの色々なイベントのときに感じるのは、大草野の人間は、基本的に真面目だなということです。

みなさん、お疲れ様でした！



へへ編集後記へへ
《丁度1年、繰り返し?》

去年の同じ号で、自民党総裁選の結果、石破さんが総裁になったことを書いていた。そして、すぐに衆議院議員選挙が執行されることになり、国民不在の「信を問う」選挙を「元々信用も信頼もしていない。」と批判して書いていたようだった。

その後、参議院議員選挙でも負けて、この度、高市早苗総裁が誕生したが、7月20日の参院選後、政権与党が、政治を動かさずに、ずっと党内の勢力争いばかりを見せられている気がしていたが、初めての女性総裁が決まったかと思うと、今度は、周囲がその総裁を少し苛めているかのような感じに見えて取れる。

連立与党であった公明党が政治と金の問題で連立を組まないと言っているようだが、それはずっと前からあった話で、何故高市氏になつてから?と考えると、高市氏が右の色が濃ゆいから距離を置いているようにしか見えない。「政教分離」を主唱する自民党員からすれば渡りに船なのかもしれないが、政権を維持するには「多数決」と言う民主主義の切り札に勝利しなくてはならない。

民主主義の原則は、「熟議」である。私は思うが、現代ではお手軽な「多数決」が大きな顔をしている。どうしてもいいが、公明党は自分の首を絞める結果になつたりしないか?